

大宮

THE OHMIYA HACHIMAN

令和 5 年 (2023)

皇紀 2683 年

御鎮座960年奉祝

御鎮座960年奉祝大祭号

【第127号】



北参道鳥居(令和5年4月26日竣功)

御鎮座九百六十年奉祝 秋の大祭をひかえて

大宮八幡宮宮司 鎌田 紀彦

小生が当宮に赴任して3年目の夏、和太鼓演奏者の響道宴氏が来社され、「7月25日は世界のアーティスト等が『時間をはずした日の祭事』としてライブをしているので、是非とも大宮八幡宮の大前に和太鼓の奉納演奏をさせてほしい」との申し出がありました。

「時間をはずした」とは、マヤ文明の自然の動きに近い「コズミック・ダイアリー」によるもので、1年が13ヶ月、ひと月が28日周期で巡ります。1年の初めが7月26日より始まり、翌年の7月24日に終わるので、25日が「時間をはずした日」となるというものです。毎年奉納していただくことを条件に受け入れました。

そもそも、25日は天神様のご縁日で（ご誕生もご逝去も25日）、当宮の境内社の大宮天満宮では1月25日の初天神祭のみ斎行いたしておりました。そして、ちょうど半年後の7月25日を「納涼大宮天神こどもまつり」として、和太鼓演奏奉納の1時間前の午後5時半より大宮天神祭を斎行することに致しました。

当宮の幼稚園園児も夏休みに入り、夕涼みがてら家族連れでお参りいただいております。年長組園児を対象に『書画』の奉納をお願いして行燈に張り、掲出します。氏子地域の小中学校にも奉納を依頼し、また一般の方々からの応募もあり、御鎮座九百六十年奉祝の今年は479点、行燈361灯が奉納されました。

また、こどもあかりみこし（2基）やこ

どものミニ花火の集い、氏子青年会主催の模擬店等が出店され、前日の24日の宵宮祭も賑わっております。

また、「杜のひびきinおおみや」（時間をはずした日の祭事）も今年で23回目。和太鼓演奏者の響道宴氏と和太鼓チーム「阿門」、篠笛・能管奏者の武田朋子氏、ギターリストのミヤケリョウ氏、剣道かむる（リーダー）の島口哲朗氏以下男女11名）の形式美と芝居と武術を融合したサムライアーティスト等は、世界30カ国以上、約150都市で活躍されています。2012年に独自のサムライメソッド「剣道」を創設し、日本、イタリア、チェコ、イギリスなどで道場を展開中で、日本文化芸術としての「SAMURAI」を世界に発信し続けている日本唯一の「サムライアーティスト」集団です。ちなみに、「サムライアーティスト」は国際特許取得済みとのこと。当日も海外出張より帰国し、当宮へ駆け付けてくださったリーダー。迫力せまる剣道道を太鼓に合わせて奉納いただきました。益々の活躍をお祈りいたします。



8月2日、当宮において永職会第128回例会が開催され、その時の講演会の



講師に前宮内庁掌典長楠本祐一先生をお招きいたしました。「天皇の祈り（宮中祭祀の意義）」の題目で、講話をいただきました。

国安かれ、民安かれとの天皇の祈りを通じて、わが国の長い歴史の中で独自の天皇像が形作られてきましたが、これからの宮中祭祀の意義について先生は深刻に危機感をお持ちでした。危惧されている問題点を挙げられましたので紹介いたします。

まず、地球温暖化。次に、わが国の少子高齢化。そして、最近の日本社会における精神・心の荒廃。

先生は、「今時代が求めているものは、天皇の祈りに見られるように日本人がその長い歴史の中で積み上げてきた貴重な精神面での財産を今一度真剣に見直し、今の時代により則したものであるように更に磨きをかける努力が求められているように思われます。こうして生まれてくる新たな日本、日本人の精神、心を次の世代に引き継いでいくことは現世代の重要な責務であり使命であると思われま。更に混迷を極める国際社会の中にあつて、わが国より「これからいかに生きるべきか」についてのメッセージを発出することはわが国としての重要な国際貢献になるものと考えます。」と講演を結ばれました。

ミット36周年「世界平和祈りの集い」に参加させていただきました。

昨年は、野外での35周年式典中に突如として猛烈な雷鳴の嵐と落雷に見舞われ、予定を繰り上げて終了したことや、今年の熱中症対策により、今回は式典の大半が延暦寺会館で開催されました。諸宗教の代表者6名が各々登壇して、まずそれぞれの祈りが捧げられ宗教間の対話や平和への取組みについて発言し、約450名が平和の祈りを捧げました。

その後、野外の「平和の祈り記念碑前広場」に集まり、代表者9名が登壇し、午後3時半に「平和の鐘の音」に合わせて参加者一同黙祷を捧げました。

黙祷後に、大樹座主様は世界各地で起きる紛争やコロナ禍、自然災害などを挙げた上で、「今この時に苦しむ人々に心をお寄せいたします。我欲の暴走、憎悪と暴力の連鎖を断ち切り、協働と調和の力で慈悲の心を未来に向けて育まねばなりません。」と話されました。

（中外日報第28893号の写真を掲載。記事も参考にさせていただきました。）

当宮は今年御鎮座九百六十年。今年は4年ぶりに神輿合同宮入りも復活いたします。

ご社頭にご家族お揃いでご参詣いただき、お幸せにお過ごしになりますようお祈り申し上げます。



中外日報社提供

本年も去る8月4日、比叡山宗教サ

（令和5年8月22日記）

御鎮座960年奉祝

大宮八幡祭り(秋の大祭)



17日の例祭併せて氏子奉幣祭は、例年、神社本庁から献幣使の参向を仰いで斎行されます。特に本年は御鎮座九百六十年を奉祝する特別な年となり、神社本庁より献幣使ご参向のもと、本宮石清水八幡宮幣並びに全国八幡宮連合幣の供進を頂き、厳肅に斎行されます。ご本殿の御扉を開き申し上げ、献饌・奉茶に続いて宮司の祝詞奏上、次いで、全国8万の神社を包括する神社本庁よりの幣帛が献ぜ

新型コロナウイルス禍によって3年間にわたって多くの行動が制限されて参りましたが、5月に行動制限が解除されたことにより、各地で多くの伝統行事が再開されていることは誠に喜ばしい限りです。当宮でも、昨年から「祭りの空気を復活させよう」と責任役員総代をはじめ氏子各地区の睦会の皆様によって、色々と検討がなされてきました。御鎮座九百六十年を迎えた本年、この慶年をお祝いしようとの心を一つに、神輿合同宮入を始めとする各種神賑行事を再開します。「御鎮座九百六十年奉祝 大宮八幡祭り(秋の大祭)」を盛大に斎行し、御神慮にお応えしようということになりました。

当宮の例祭日は9月15日ですが、例祭日が金曜日・日曜になる年は、例祭の祭儀を例祭併せて氏子奉幣祭として日曜日に斎行するとの申し合わせに従い、9月15日午前10時から神輿神霊入れ祭を斎行し、各神輿に御祭神の御分霊をお遷し申し上げます。続いて午前11時からは若宮八幡神社・白幡宮例祭が斎行されます。16日には各神幸所のお祓いをし、宮司が巡拝を致します。次いで夕刻6時から御本殿では宵宮祭が斎行され、翌日の年間最大の重儀である例祭の日を迎えるのです。

られ、献幣使の祭詞奏上。続いて本宮石清水八幡宮幣及び全国八幡宮連合幣、本宮幣が献ぜられ、奉幣使の祭詞が奏上されます。また、大宮・方南南・方南北・和田東・和田西・松ノ木の氏子6地区から寄せられた赤誠こもる浄財を氏子幣としてご神前にお供えし、氏子奉幣使(祭礼委員長)に依り氏子一同の感謝の真心と、子々孫々までのご加護を願う氏子祈願詞を奏上されます。氏子が直接ご神前で祈願詞を奏上する祭典の趣旨、形式は極めて稀であり、大宮八幡宮氏子区域の氏子・崇敬者各位により代々伝えてこられた美風でもあります。

さて、いよいよ夕刻には、城西随一の盛儀とも称される神輿合同宮入りです。次々と神門を潜る神輿(今年は9基)の華やかさたるや、氏子皆様の心意気そのもので、9基揃った熱気あふれる神輿振りに本殿前は興奮の坩堝と化し、更には、当番神輿の「木」一つで一斉に神輿が降ろされ一瞬にして動から静に本殿前に静寂が蘇る、まさに「心ひとつ」の見事な神輿振りに、陪観する人々を含め皆様が大きな感動を覚えます。



また、期間中、各種奉祝行事が執り行われます。17日の祭典終了後、11時30分からは倭成雅楽会による舞楽が、午後1時からは小笠原宗家による將軍源頼朝以来の武家の弓の儀式草鹿式が執り行われ、神門内では小原流献華展、第10回フォトコンテスト作品展が開催され、清涼殿ロビーでは、9日より18日まで恒例の重陽の節句菊被綿飾りが展示されます。18日には御鎮座九百六十年を奉祝して、ご本殿で第3回目のいけばな小原流献花式が斎行されます。

奉祝大祭期間中の祭事

菊被綿神事	9月8日夕刻〜翌朝
神輿神霊入れ祭	9月15日
若宮八幡神社 例祭	9月15日
白幡宮	9月15日
各神幸所清祓・宮司巡拝	9月16日
宵宮祭	9月16日
例祭・氏子奉幣祭	9月17日
奉茶(裏千家) 〔淡・東京第7東支部〕	9月17日
第35回 神輿合同宮入り	9月17日
神輿神霊返し祭	9月18日
いけばな小原流献花式	9月18日
終了奉告祭(直会乃儀)	9月18日

神賑行事

弓道場振武殿神殿祭	9月10日
秋の弓道奉納射会	9月10日
奉納書画行燈	9月9日〜18日
献燈提灯	9月9日〜18日
第25回 菊被綿飾り	9月9日〜18日
大宮幼稚園 園児神輿宮入り	9月11日
第43回 献華いけばな小原流展	9月16日〜18日
大宮幼稚園 園児民謡踊り	9月16日
方南エイサー踊り	9月16日
杉並太鼓	9月16日
スカウトバザー	9月17日
町内神輿渡御・社参(昼間)	9月17日
野点茶会(裏千家) 〔淡・東京第7東支部〕	9月17日
スカウト神輿宮入り	9月17日
舞楽(倭成雅楽会)	9月17日
小笠原流草鹿式	9月17日
高井戸囃子	9月17日
第10回フォトコンテスト作品展	9月15日〜
露店	11月23日
	9月16日〜18日

第23回
十五夜の神遊び
9月30日

第25回 重陽の節句 菊被綿きくのかきわた

重陽とは陽数の極みである9が重なるという意で、9月9日にこの季節に咲く菊を飾ります。菊は、古代中国では仙境に咲く花で破邪延寿の効能があると信じられ、平安時代前期の宇多天皇の御代に菊被綿として宮中行事に取り入れられました。菊被綿は重陽の前日の9月8日に、菊の花を白、赤、黄の真綿で覆って菊の香りを移し、9日早朝、朝露で湿った真綿を顔にあてて若さを保ち、菊の薬効により無病息災をも願うもので、当時の贈答品としても用いられた（紫式部日記）。当宮では、菊被綿神事を8日夕刻に斎行し、菊被綿飾りを9月9日から18日まで清涼殿ロビーにて公開展示します。



第23回 十五夜の神遊び 月の音舞台つきのおとぶたい



旧暦8月15日（本年は9月29日）の十五夜にあわせて、9月30日に第23回十五夜の神遊びが斎行されます。この十五夜

の神遊びは平成13年より催されており、夕刻にはまず竹灯籠約1300基に陪観の人々によつて火が点され、仲秋祭が斎行されます。その後、神楽殿にて雅楽や神楽舞の奉奏に続いて、月の音舞台となります。演奏者は広く国内外で注目を集める尺八奏者き乃はち氏です。き乃はち氏の尺八の調べは、虫の音とともに、名月に照らされた鎮守の杜に響き渡り、深く閑かに心に染み渡ります。



「月見の宴」のご案内

清涼殿では、「十五夜の神遊び」にちなんだ特選料理『月見御膳』をご賞味いただく「月見の宴」を月の音舞台終了後に（午後8時頃より）開催します。

名月を愛で、古式ゆかしい雅楽・神楽の調べや尺八の演奏をお楽しみいただいた後、十五夜の雅と幽玄の余韻の中、「月見の宴」をお楽しみいただきますようご案内申し上げます。

定員になり次第締切りとなりますので、お早めにお申し込み下さい。
※雨天でも「十五夜の神遊び」「月の音舞台」は行われます。

お申し込み・お問い合わせは

大宮八幡宮 清涼殿まで

03(3312)7515

「月見御膳」

◎御神酒付
お一人様 一、二、〇〇〇円（税込）
『月の音舞台陪観指定席』含む
限定100名



献燈提灯奉納の お願い

大宮八幡祭り（秋の大祭）の期間中多くの参拝者をお迎えするにあたり、皆様方のお名前（ご社名）を入れた献燈提灯を掲出し、ご社頭を賑々しくお飾りさせていただいております。



杜の話題

わかば祭り(春の大祭) 斎行

本年のわかば祭り(春の大祭)は御鎮座九百六十年を奉祝して諸祭典が厳粛盛大に斎行され、多くの参拝者で賑わいました。まず、4月29日には昭和祭を斎行。次いで5月1日には、躑躅育木祭並びに皐月朔旦祭が斎行されました。3日午前10時より、春の大祭第一日ノ儀こどもの祭り(稚児健康祈願祭)と稚児行列が斎行され、大宮幼稚園園児を中心に75名のお稚児さんが参列しました。午後には、江戸消防記念会第九區が梯子乗りを奉納。4日は、春の大祭第二日ノ儀が斎行され、午後には、当



北参道鳥居竣功清祓式

御鎮座960年奉祝記念事業として建立された北参道鳥居の竣功清祓式が4月26日に行われました。この鳥居は朱塗り鋼製で高さは5.6メートル、崇敬者の石松尚典氏のご奉納により建立されました。当日は雨の中、まず始めに



清祓式を斎行。当宮宮司、奉納者の石松尚典氏、小宮あんり都議会議員、鳥居の制作者、施工者代表らが参列、祭員が鳥居を祓い清めました。

清祓式に引き続き、小笠原流宗家嫡男の小笠原清基氏が屋越の墓目の儀を行い、ヒューという霊妙な音を発して鎬矢が鳥居の上に放たれ、魔障を退散させました。

その後、祭員、宮司以下参列員、大宮幼稚園園児たちが竣功したばかりの鳥居の潜り初めを行い、次いで社殿で奉告参拝を行いました。終了後、社殿では鎌田宮司より、ご奉納頂いた石松氏並びに小笠原流宗家小笠原清忠氏へ感謝状の贈呈が行われました。



宮みどりの会主催の植樹祭(献木式)があり、献木奉納者の方々に観葉植物のテーブルヤシが授与されました。最終日の5日は、春の大祭当日祭(尚武祭)が斎行され、皇室国家の弥栄、氏子崇敬者の繁栄、新型コロナウイルス感染症の熄滅が祈念されました。

第23回茶道裏千家献茶式



第23回茶道裏千家献茶式が5月13日に行われました。裏千家今日庵(うらせんけい)の宗匠(そうしやう)・先代(せんだい)15代家元(かえん)は、御年(ごねん)100歳を迎えられたとは思えない矍鑠(せきじやく)たるお

また期間中には、佼成学園吹奏楽部奉納演奏、古武道武技奉納、野点茶会、方南エイサー、雅太鼓等の各種神振行事があり、表参道では大宮八幡植木市が開催され、新緑の木々の中多くの参拝者で賑わいを見せていました。

神功皇后祭

6月3日、御祭神神功皇后の御陵である狭城盾列池上陵遙拝の後、神功皇后祭が宮司以下祭員奉仕により斎行されました。令和元年は御祭神神功皇后が崩御されてから1750年にあたり、千七百五十年式年大祭を斎行しました。そして本年は、千七百五十四年の恒例祭として祭典を行いました。



の3席が設けられ賑わいました。大宮幼稚園では幼稚園茶席が開かれ、来賓の前で緊張した面持ちの園児たちが、日頃の稽古の成果をお披露目しました。姿で点前座に着かれ、真心込めてご神前に濃茶と薄茶が献じられました。また、奉賛添釜茶会が裏千家淡交会東京第7東支部の担当主催によって朝早くから開かれ、濃茶席・薄茶席・立礼席



6月9日、大宮幼稚園の年長組を対象に和紙漉き体験が行われました。講師にユネスコ無形文化遺産「細川紙」の伝統工芸士の谷野裕子氏をお招きし、楮などの天然素材を原料とする和紙の文化についてご指導いただきました。

和紙漉き体験



神功皇后は八幡大神と讃えられる応神天皇の御母君であり、皇后が身籠もつたまま三韓を平定なされたことから応神天皇は胎中天皇とも尊称されています。おふたりへの敬仰は聖母大神（聖母大菩薩・神功皇后）と八幡大神（八幡大菩薩・応神天皇）との母子信仰（聖母信仰）、そして子授け・安産・子育ての神として当宮に古来より受け継がれ、戌の日には多くの安産祈願を受けられる参拝者で賑わいます。

その後、園児たちが実際に和紙を漉き、それぞれが持ち寄った花や葉でオリジナルのハガキを作りました。



当日は役員総代らの参列のもと、まず宮司の先導にあわせて、祭員参列員が大祓詞を奉唱。次に切麻と人形（形代）による自祓の儀の後、天と地が祓われ、八針神事が行われました。その後、左右左と茅の輪と笹の輪を3度潜り社殿へと参進し、大祓修了奉告祭並びに大祓詞等浄書奉納奉告祈願祭を斎行。ご神前には、6月17日から25日まで神社と当宮敬神婦人会りんどう会共催の大宮八幡宮水無月書写会にて浄書された132巻の

24日から30日の祭典前まで事前大祓式を行いました。事前大祓式では神職の説明により各自切麻と形代（人形）で自祓を行い、大麻によるお祓いを受けた後、茅の輪とコロナ禍退散の笹の輪を潜り半年の穢れを祓い、残る半年を清々しく過ごせるよう祈念しました。



水無月夏越の大祓神事が、6月30日午後4時より斎行されました。それに先駆け密集を回避するため、一般参列希望の方に

夏越の大祓神事・事前大祓式

大祓詞等が納められました。書写された大祓詞は大宮天神こどもまつりで書画行燈として献灯されました。



7月4日〜6日向陽中学校の2年生男女4名が、7月11日・13日には高南中学校の2年生女子1名が職場体験をしました。神職の指導により白衣袴を着装し、朝拝に参加。境内の説明を受け、掃き掃除や授与所勤務、大祓詞の書写、龍笛の稽古、七夕飾りの作成など神社でしかできない多くの体験をしました。



7月4日、杉並税務署の新入署員5名が来宮、奉告参拝を行いました。併せて吉田憲司署長が退任の挨拶をされました。また、7月20日には新署長の嶋原学史様、新副署長の岡正志様、新総務課長の高橋文子様が新任挨拶のため来宮、宮司と懇談されました。

向陽中学校・高南中学校 職場体験



平安朝の七夕飾り乞巧奠を現代に再現した平安の七夕を巧奠が、7月1日より16日まで清涼殿ロビーにて公開されました。七夕行事は元来7月7日の節供で、奈良時代に入ってきた中国の牽牛と織女の星祭の伝説と裁縫や書道・詩歌・管絃などの上達を祈る女性の祭りである乞巧奠が、日本古来の聖なる乙女棚機つ女の信仰と習合した行事です。当宮では平成11年、天皇陛

第25回平安の七夕を巧奠・平成の七夕大宮八幡乞巧潜り神事

新入職員奉告祭並びに署長他就退任挨拶に杉並税務署来宮

新入職員奉告祭並びに署長他就退任挨拶に杉並税務署来宮

の経緯」と題し、終戦後の騒乱の中、神社本庁が設立されるまでについて講演されました。

大宮八幡宮の夏の風物詩第23回納涼大宮天神こどもまつりが7月24・25日の両日、行われました。24日は午後

第23回納涼大宮天神こどもまつり 「杜のひびきinおおみや」・ 書画行燈

宮司以下神職が左右左と3度潜る乞巧潜り神事を斎行しました。その後清涼殿ロビーに進み乞巧奠に拝礼。また神門内神楽殿前に大きな笹竹が5本設置され、参拝者の願い事が書かれた短冊によって華やかに彩られました。15日の夕刻には社殿において雅楽の夕べが催され、雅楽の調べと巫女による浦安の舞が参拝者を魅了しました。



下の御即位10周年を奉祝して第1回平安の七夕乞巧奠を開催し、今年で25回目を迎えました。7日の夕刻には社殿にて七夕の神遊び（技芸上達祈願祭）が斎行され、次いで神門前に設けられた梶の葉に七夕人形、五色の吹き流し、五色の布を垂らした平成の七夕大宮八幡乞巧潜りを、



ひびきinおおみや（時間をはずした日の祭事）が開演。和太鼓の響道宴氏をはじめとして武田朋子（篠笛・能管）／ミヤケリョウ（ギター）

6時より宵宮祭を斎行。大宮幼稚園をはじめ近隣の小中学校、一般の有志の方々から寄せられた479点の書画が貼られた行燈361灯の献灯式が行われ、参道・境内を照らししました。25日は午後5時30分より大宮天神祭を斎行。両日ともに祭典後、神楽殿に特別に奉祀の「昇龍の大神」を拝礼しました。また、たくさんの子どもたちによってこどもあかりみこしが賑やかに境内を巡り、神門前広場では子供ミナ花火の集いも行われました。午後6時30分より第23回杜の



／劔伎道かむゐ（サムライアーティスト集団）／阿門（和太鼓チーム）による御鎮座九百六十年を奉祝した奉納演奏・演武が披露されました。



多摩清水社例祭

「水の日」の8月1日、葉月朔旦祭に続いて多摩清水社例祭（水神祭）が斎行されました。俳人阿波野青畝の句碑には、「広き野に靈の清水のあるところ」と、武蔵野の「多摩の大宮」を想望して詠まれており、今日に至るまで神聖な御神水が湧き出ています。



を想望して詠まれており、今日に至るまで神聖な御神水が湧き出ています。

永職会第128回例会開催

8月2日、累代社家にして、祀職を継ぐ全国の有志の会である永職会の128回例会が当宮で開催されました。寺井種治会長（大阪天満宮宮司）をはじめ



受彰、おめでとうございます

当宮責任役員 藤枝友宏氏が長年にわたる神社運営へのご尽力、ご功績により神社本庁定例表彰（表彰規定第3条第3号）をお受けになり、5月24日、表彰式が明治記念館で行われました。また、当宮兼務社の成宗白山神社責任役員 岩田和保氏が多年にわたるご功績により敬神功労章を受彰され、4月28日には神社本庁にて授与奉告祭が行われました。

藤枝役員、岩田役員の今後ますますのご活躍とご健康をお祈り申し上げます。

22名が出席し、開催奉告正式参拝の後、総合結婚式場清涼殿にて例会を開催。次いで前宮内庁掌典長の楠本祐一氏による「天皇の祈り（宮中祭祀の意義）」と題した講演会が行われ、その後懇親会が開かれました。

第40回戦没者慰霊祭

終戦記念日である8月15日、氏子区域より出征された英霊をお慰める第40回戦没者慰霊祭が清涼殿特設斎場にて斎行されました。今年も全国戦没者追悼式にあわせ正午の時報を合図に黙祷。次いで慰霊祭となり、当宮と兼務社の氏子の英霊329柱に感謝し、慰霊と追悼の誠が捧げられました。



りんどう会だより

清掃奉仕

わかば祭りを迎えるにあたり、4月27日に御垣内清掃奉仕が行われました。18名の役員・会員は正式参拝の後、御垣内を掃き清めました。秋の清掃奉仕は9月9日に行われる予定です。



総会並びに研修旅行

7月10日、コロナ禍によって中止となっていた研修旅行が総会とあわせて4年ぶりに開催され、宮司、鎌田会長以下会員25名、事務局担当職員が参加しました。早朝社殿にて旅行安全を



浄書され、大祓神事後、御神前に奉納されました。また6月23日には、大宮幼稚園の園児たちやりんどう会会員によって奉製された飾りが小笹に飾り付けられ、福笹として500体が大祓神事（事前大祓も含む）に参加された方に授与されました。

祈願して出発。バス車内での総会の後、一行は報徳二宮神社を正式参拝。宮司様や先方敬神婦人会の皆様の歓迎を受け、交流を深めました。次に小田原城を見学しました。横須賀市に移動し、昼食では海の幸を堪能。横須賀美術館を見学し浦賀の渡し船に乗船後、叶神社を参拝。横須賀ポートマーケットでのお買い物を楽しみました。



氏子青年会だより

研修旅行



6月4日、第4回研修旅行が開催され、渡邊副会長以下23名、事務局担当職員が参加しました。今回は栃木県足利方面への旅行で、一行は「石川たまごや」でのショッピングの後、足利伊勢神社を正式参拝。

まんなかたぬま」に寄って帰途につきました。7月8日、全国氏子青年協議会創立60周年記念第61回東京大会が明治神宮会館で開催されました。大会には、彬子女王殿下が御臨席され、全国の氏子青年会関係者約600名が出席しました。大会終了後には京王プラザホテルで祝賀会が行われました。



模擬店出店

7月24日・25日の納涼大宮天神こどもまつりにフランクフルトやかき氷、スーパードールすくいなどの模擬店を出店しました。天候にも恵まれ、大勢の子どもたちが大変賑わいました。



戌の日詣りは聖母大神・子育八幡さまの当宮で安産祈願祭を！

※戌の日以外でも随時お受けしております
ご祈願の方には大宮八幡息長帯（安産腹帯）とともに、へその緒で結ばれたお母様とお子様健康にご出産の時を迎えられますようとの願いが込められた「母子緒守」「安産御守」「安産祈願絵馬」を特別に授与しております。

大宮八幡息長帯

母子緒守

安産祈願絵馬

安産御守



戌の日早見表

（令和5年9月～令和6年1月）

9月	10月	11月	12月	1月
1日(金)	7日(土)	12日(日)	6日(水)	11日(木)
13日(水)	19日(木)	24日(金)	18日(月)	23日(火)
25日(月)	31日(火)		30日(土)	

は大安の日です

大宮八幡の杜 秋も深まり

第45回 杉並大宮菊花展

杉並大宮菊の会の主催杉並区後援による**杉並大宮菊花展**が10月28日より11月23日まで開催されます。杉並区内外在住の菊の愛好家の方々が月ごとに「菊づくり講習会」を開き、丹精込めて育てられた数々の菊の大輪が境内を彩ります。七五三シーズンには、ご家族が千紫万紅の菊とともに写真撮る光景が見られます。



神符奉戴式を斎行

令和6年の新春を迎えるにあたり、**神宮大麻頒布式**並びに**氏神神社神符等奉戴式**が、11月初旬に斎行されます。ご神前において大宮大麻・三宝荒神などの御神札に御霊遷しをして、神宮大麻とあわせて頒布始めの由を大神様に御奉告いたします。各ご家庭や会社の事務所の神棚に、神宮大麻や氏神様の新しいお札をお祀りしましょう。



新嘗祭



新穀を神前にお供えし秋の収穫を感謝する**新嘗祭**が、11月23日(勤労感謝の日)に斎行されます。新嘗祭は五穀豊穣を祈る春の**祈年祭**(春の大祭)と対をなすお祭り、宮中をはじめとして全国津々浦々の神社で斎行されます。当宮では大宮幼稚園の稲田で園児たちが丹精込めて植えてきた稲穂をはじめ、氏子・崇敬者や企業からのたくさんのお供えが、拝殿内中央階段の左右に庭積機代物としてご神前に奉納されます。



庭積機代物

第30回 杉並花笠祭り



12月9日、今や初冬の風物詩となった**杉並花笠祭り**が、サミット株式会社と当宮の共催で、山形県などの後援を得て開催されます。コロナ禍のため令和2年より中止となっていました。4年ぶりの開催となります。この花笠祭りでは例年、ご本殿で開催奉告祭を斎行後、御神酒の鏡開きや花笠踊りのパレードが奉納され、表参道では山形の名物芋煮や御神酒(六歌仙)が無料で振る舞われます。山形特産の農作物などの露店が立ち並び、3万人を超える参拝者で賑わいます。

令和6甲辰年

12月1日より授与所にて受付開始

「新春初祈願祭」のご案内

当宮では、令和6甲辰年の新春にあたり、皆様のご健勝・ご繁栄をお祈りする**新春初祈願祭**を1月1日午前0時より連日随時ご奉仕いたします。

また企業や団体関係の皆様には、仕事始めの祈願祭のご予約も承っております。

年の初めに、社員・ご関係の皆様お揃いでご祈願をお受けになり、八幡大神様のご神徳を戴かれ、新しい年が幸多き発展の年となりますようお祈り申し上げます。



初宮詣芳名(敬称略)

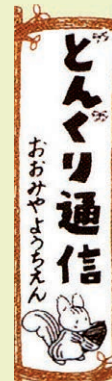
(令和5年3月21日～7月20日)

お子様のお健やかな成長をお祈り致します

高野莉央	村上桃瀬	阿井悠真	寺島乙葉	菅結翔	小松怜愛	大島大河
山本望乃佳	池田康生	中村稀都	福岡律輝	山本晴葵	福島瑛志	諸藤琴子
近江風	渡辺松生	櫻井理登	手塚睦斗	山中惺七	村上なつめ	森心希
池上明彩	堀律斗	橋定幸杜	古賀ちひろ	島田蒼生	茂垣陽向	太田瑚都
満田玲菜	新井萌咲乃	宇佐美凛	中山桃杏	山田寛大	阿部然	岡部裕磨
本間麗咲	金高唯依	加賀英菜	長屋咲那	河野茉夕花	川原大和	阿藤季来
芳賀康太	田口裕翔	加島理名	宗美桜莉	西村美景	工藤湊人	大賀誠仁
宮野栞樺	穴迫葵	岸花果	岡慈希	山田叶美	橋本碧来	栗原想来
岡村律輝	松原音和	黒田陸叶	高田大地	木村莉緒	浅井真白	柳沢京花
中村春香	松原奏和	大橋咲舞	中島梨斗	森羅大	内倉誠	西島仁花
西本弥央	野口慶	磯貝優里	皆川きい	川崎義友	齋藤花純	澤津凛
新井一颯	佐藤杏次	宅見航	相場久太郎	中野結叶	平山芽依	小俣曉臣
川村桜菜	谷合慶音	松田紗己	梅田杏	高橋美優	押切琉莞	朝倉康
黒田絆愛	清水至	那須颯花	坂本陽翠	山内佑	須藤なぎ	松本柊真
藤本治朗	福田悠陽	橋本明季	今村斗佑真	沼口橙輝	直野怜香	田邊莉野
石川新	平谷咲結奈	丸葉一郎	神津文花	伊藤弦杜	三木ナズナ	國分春来
岡原佑弦	柳澤星那	胡龍澄	小竹七奈未	新原温	德江惟	細川千晴
折坂睦	藤村紗風	松田青士	風祭松花	谷川蓬	小野本凌成	傳法谷幸樹
諏訪一真	安東凛太郎	五十君翠	竹田歩華	外山稜真	山口竜雅	山本陽翔
高橋みなも	伊藤陽希	若林幸杜	鈴木陽士	軽部柚花	山口竜雅	金子想汰
鈴木美湖	渡邊ひかり	星環来	岡崎斗紀	並木弓依	榎本光希	鈴木里空
大橋紗杞	浦瀬晴琉	山下冬真	山田潤昊	齋藤光伶	立原快飛	上原朝晴
斉藤柚希	渡邊彩睦	秋葉潤	久保寺美詞	高橋陽和	赤羽根暖麻	茶谷侑良
長井千明	吉野碧透	工藤結	大澤千紗	古澤空大	武田光叶	須藤悠陽
潮田咲菜	柴田百	水原董伶	木下樹月	橋本佑来	深澤玲香	高橋連生
谷口結恬	三輪逢介	中村空	伊藤繼	白川千景	吉田羽玖	高橋暖平
根本皓平	長谷川暖真	高橋耀佑	小林未来	井上朝陽	八木陽都	梶川奈那
山形奏介	長谷川陽鞠	伊賀奏	空間唯楓	高柳咲良	廣瀬鈴都	杉本依都
倉持傳ノ介	川崎景	宇田川翠心	有川蒼都	横田天里	森下颯	三ツ森也倫
新正岳	小川架澄	福田千晴	上園有紗	秋山歩美	石本珠菜	橋本董
関塚佳以	殖栗小晴	齋藤終	飛嶋桜介	陣内雄玄	西野陽哉	橋本董
飯塚香晴	松本芽依	雨宮安那	鎌滝いちか	新井悠理	町田紬	櫻河大智
山本莉香	青柳作	丸山楓	渡邊向	金子暖	志摩美寧	藤田和
野田柚希	村上葵子	山崎響	阿部颯大	小林叶奈	前橋寿々翔	鈴木うた
本間結羽	金田奏音	永井舞衣菜	渡邊成	西本真悠	別府花笑	辻谷飛向
高瀬海良	戸松恵菜	児玉花音	佐藤圭悟	安藤陽翔	大坂凛一	鈴木昂佳
清水康誠	横地謙悟	津留崎颯太	菅遥稀	鈴木柊真	弘平谷充	柿沼嶺宇
石橋楓莉	板倉稜太				高田某風	真木梁太郎
岩永光昂	宮田涼来				中村海翔	岡部絢
					大沢冬龍	福田仁香
					堀谷川千蒼	松本恵奈
					田原寧々	三浦瑛太
					矢口怜依	池永奏汰
					武井律樹	割田菜
					土屋季生	一色鴻
					武藤結結	鈴木理斗
					四ヶ浦和礼	

お泊り保育

丸山 尚子



7月21日金曜夕方4時半、玄関にドキドキワクワクした気持ちで大きな荷物を持った年長組の子どもたちがやって来ました。「お泊り保育へようこそ！」の先生たちの合図で元気いっぱい笑顔、少し不安そうな顔、興奮して上気している顔で園内に入り、まずは、荷物の整理と二人一組になって、布団に枕やタオルケットを準備。園庭に出て、スライダ遊びゲームをする頃には、ちよつぱり涙を溜めていた子も皆笑顔に！大きなスライカの中身をくり抜いてスライカマン作り。クラスごと「目はどうする？」「鼻はどんな形がいいかな？」「話し合いながら個性溢れるスライカマンが出来上がりました。中身のスライカはもちろん皆でいただきます。種を飛ばしながら美味しそうに食べていました。そして、お腹がすいた頃、先生たち手作りのカレーライスとサラダで夕食です。園庭で食べるカレーライスは最高。「おかわり下さい！」の声がたくさん聞こえてきます。お腹もいっぱいになって、いよいよキャンプファイヤーです。ファイヤーの周りで「タタロチカ」を踊ったり「バケ



チカ」を踊ったり「バケ

チカ」を踊ったり「バケ

チカ」を踊ったり「バケ

ツ100ぱいのなつやすみ」を歌ったり、花火を見て大興奮。汗をかきながら幼稚園の夜を満喫。その後、3台の通園バスに乗って夜のドライブへ出発。目の前に見える新宿のビルや周りのライントに喜んで、バスの中は、子どもたちの賑やかな声でいっぱい。園に戻ってきてホールに向かうと、天井に大きく映った「ドラえもん」のDVD、寝転がって見ている顔は、とても可愛くてホールには笑い声が響き渡っていました。楽しい事が盛り沢山の一日が終わり、2階の保育室でいよいよ就寝です。パジャマに着替えて、枕の横には、お気に入りのぬいぐるみが待っています。「おやすみなさい。」と電気を消して真っ暗になると、まだまだ興奮さめやらぬ様子の子どもたちは、しばらくトイレに行ったり、麦茶を飲んだり、隣のお友だちと話したり眠れないようです。少しずつ静かになり全員が夢の中へ。可愛い寝顔を見ながら、コロナ禍で自粛していたお泊り保育が3年振りに出来た事に幸せを感じていました。そして、早起きの子どもたちのパワーに圧倒されながら、2日目の朝を迎えました。同じご飯を食べ、同じ部屋で寝て、大好きな仲間たちと一緒に過ごした2日間、先生方、バスの運転手さん、笑顔で送り出して下さったお家の方々、色々な人に感謝の気持ちを忘れずに、子どもたちにとつてかけがえのない思い出になってくれたら嬉しいです。自信がついて少し逞しくなった顔で夏休みを迎える事でしょう。これからも、いろいろな経験をしてみても体も大きく大きくなっていく事を願っています。



中野山風人	田中花奈	小林翠	鈴木風
杉原和美	池田悠暉	山崎絢人	酒巻元
木村心ノ葉	野村海翔	鈴口梓	板東胡玖
星拓実	山中莉穂	鈴口羽菜	新浜光
中村皐希	田中風宇	桎葵結	藤島凜
多田瑞希	田中琳翔	矢田部晴輝	永住旺志朗
中西輝瑠	原田紗	岩倉ほか	内野颯人
久松蒼	柏崎穂高	岸本マコト悠吾	内山叶菜
稲川咲花	赤穂利斗	門田いろは	青木滯史
丸山莉愛	堀川泰幹	高橋陽葵里	飯嶋希々羽
富池海友	渡邊英茉	大野翔翔	上田はる
鈴木彈天	惠陽々人	中澤和	小嶋美結
手塚千尋	福島大賀	青山実央	小林睦玄
田中克明	小島燈	平野真翔	安藤環志
広瀬律	高橋風	石塚楓仁	白井環子
中郷類	水野未柊	佐山陽音	由良晏莉
勝田正秋	石川結彩	沼田琉	鈴木菜乃
江口稜希	内野峻	清水柑那	藤本暖樹
佐藤匡	駒田夏琳	堀内込田連	谷坂舞奈
佐藤紫陽	高取明里	堀内美沙	長谷川愛莉
川澄和果	西山依花	鹿野紗染	野田彩榮
浅田律樹	越坂潞	碓紗帆	平尾百渚
白原典	石崎全	野上万智	井上夢奈
川浦燈太	上杉萌	早川紫瑛	山本茉瑚
鈴木偉斗	吉田琉璃	小白瑞生	井上夏向
鈴木陽晴	古田尊翔	小島禮愛	中西陽大
浮田穗高	伊藤千晴	矢加部咲歩	奥田宙
渡辺花	香川綴里	畑田栞色	遠藤寧乃
紺野花純	柴崎美月	濱中陽真	

A group of children in school uniforms are standing around large, colorful 3D numbers (1, 2, 3) in front of a traditional Japanese shrine. The children are positioned around the numbers, some standing next to them and others slightly behind. The shrine has a traditional wooden structure with a tiled roof and is surrounded by trees. The scene is set outdoors on a paved area.

古神矢・古神木等焼縄多
(とんど焼)

御鎮座960年奉祝

大宮八幡祭り(秋の大祭)

9月15日～18日

例祭・氏子奉幣祭 [17日 午前10時]



宮司祝詞奏上



氏子幣の供進



浦安舞奉奏

第35回 神輿合同宮入り [17日 午後6時発輿]

[18日]



江戸消防記念会の木遣りで参入



神輿渡合同宮入り(9基)



いけばな小原流献花式(第1回 御鎮座950年記念 平成25年/第2回 御大典記念 令和元年斎行)

御鎮座960年奉祝大宮八幡祭り 奉納神賑行事

氏子町会神幸所

大宮地区

大宮宮元會神幸所

方南地区(南・北)

峰睦会神幸所

方南新栄若睦会神幸所

泉南睦神幸所

方南西神幸所

方南東神幸所

和田地区(東・西)

和田睦会神幸所

和田敬神会神幸所

和田仲組神幸所

和田南神幸所

和田東神幸所

松ノ木地区

松ノ木町会神幸所



園児民謡踊り [16日]



杉並太鼓 [16日]



佼成雅楽会舞楽奉納 [17日]



小笠原流草鹿式(くさじしき) [17日]



高井戸囃子 [17日]



野点茶会 [17日]

大 宮 第127号

御鎮座960年奉祝大祭号

令和5年9月1日発行

大宮八幡宮社務所

〒168-8570

東京都杉並区大宮2-3-1

電話 (3311)0105 FAX (3318)6100

Mail: info@ohmiya-hachimangu.or.jp